

工学部

学部のディプロマ・ポリシー(DP:卒業認定・学位授与の方針)

<教育理念と教育目的>

愛媛大学学則及び愛媛大学憲章の趣旨を踏まえ、工学部では幅広い教養及び工学に関連する基礎知識に基づいた学問的知識を修得させることにより、豊かな人間性と自立した創造力に富む専門的職業人及び技術者となる人材を養成することを目的としています。また、深く工学分野の学芸を教授研究することにより、社会の文化の創造と発展に貢献することを目的としています。

<育成する人材像>

社会や自然との係わりの中に自らを位置づけ、グローバルな視野からの多面的な判断によって工学・科学技術を主体的、自律的に行使することができる人材を育成します。また、科学とこれを基礎とする工学分野の基礎的知識を総合的に活用して、「ものづくり」や「システムづくり」に創造的かつ実践的能力を発揮し、かつ変化する産業構造に柔軟に対応し、社会に貢献することができる人材を育成します。

<学習の到達目標>

(知識・理解)

1. 幅広い教養と工学の基本的な知識を身につけている。
2. 工学の一専門分野について基礎的知識をもち、ものづくりやシステムづくりに活用できる。

(思考・判断)

3. 科学や技術が社会におよぼす影響を理解し、国内外の視点から自立的かつ論理的な判断を行うことができる。

(興味・関心・意欲)

4. 課題を解決するために必要となる工学的知識を自ら修得するために学習を継続する能力をもつ。

(態度)

5. 自己の専門分野だけでなく教養および多様な工学的知識を総合的に活用しながら、現代社会が直面するさまざまな課題に柔軟に対応できる。
6. 課題を他者と協働して解決できる。

(技能・表現)

7. 自らの思考・判断のプロセスを説明し、伝達するためのプレゼンテーション能力、および コミュニケーション能力をもつ。

<卒業認定・学位授与>

工学部の定める教育課程を修め、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して卒業を認定し学位(学士)を授与します。

工学科のカリキュラム・ポリシー(CP:教育課程編成・実施の方針)

<教育課程の編成と教育内容>

工学部工学科では、まず基礎をしっかりと学習したのち、専門知識を身につけるための深い学びと実践力の養成へと繋がるよう、カリキュラムが組まれています。カリキュラムは、共通教育科目と専門教育科目から構成され、工学部の専門教育科目は工学共通基礎科目、専門入門科目、専門基礎科目、専門応用科目から成り、年次進行とともに基礎から発展・応用へと段階を踏んで学べるように授業科目が配置されています。

共通教育科目では、1年次の基盤科目で「新入生セミナー」、「英語」や「情報リテラシー」など、大学での学びを進めるための基礎的な知識・技能を学習します。また、専門分野の基礎を学んだあと、1年次の後学期から、3年次前学期にかけて教養科目を履修することで、社会との関連を意識して、自己の学びを深めます。

工学共通基礎科目や専門入門科目では、工学科の学生全員が同じ内容の授業を受講します。1年次の工学共通基礎科目では、「微積分」や「線形代数」などの数学科目の他、「物理基礎」や「化学基礎」などの科目で、工学系技術者・研究者を目指す学生が身につけなければならない知識・技能の基礎を学習します。また、工学の基礎である数学・物理・化学に加え、特に最近発展が著しく、工学分野としても必須になってきているプログラミングやAI/データサイエンス、環境/生命科学に関する基礎科目についても全員が1年次に学びます。教育コース選択以前の1年次前学期には、工学科各教育コースの特徴や主な研究テーマ、さらに自然・生命・環境・エネルギー・社会・情報と科学技術の関わりに加え、工学の複数の分野が融合していく未来を見据えた工学全般を俯瞰する内容について「工学リテラシー」で学習する他、後に選択する教育コースに関係なく各専門分野の入門的な科目である専門入門科目で幅広い分野の工学の基礎を全員が学びます。また、卒業後のキャリアパスを意識しつつ自己の学びを深め、実践的能力が培えるよう、「学部共通PBL」、「工学倫理・知財・キャリアリテラシー」を3年次に全員が履修します。

専門基礎科目と専門応用科目は教育コース配属後に履修します。1年次後学期からは、機械工学コース、知能システム学コース、電気電子工学コース、コンピュータ科学コース、応用情報工学コース、材料デザイン工学コース、化学・生命科学コース、社会基盤工学コース、建築・社会デザインコース、海事産業特別コース、デジタル情報人材育成特別プログラムの計11教育コース・プログラムに分かれ、教育コース・プログラムそれぞれに特徴ある授業科目を受講することにより、より専門性を深めた知識・技能の修得を目指します。各教育コース・プログラムにおいて、4年次に学生は研究室に配属され、卒業研究として各教育コース・プログラムに関連した先端研究を行います。卒業研究に取り組むことにより、学んだ知識や技術を実践・応用する力、社会で未解決の問題を解決する能力を養います。

以下に、各教育コースで開講される専門基礎・応用科目の特徴的な教育内容をまとめます。

・機械工学コース

機械工学に関する基礎的知識と機械に関連するものづくりや問題解決、コミュニケーションに必要な学問的知識・実践的スキルを修得させ、豊かな人間性と自立した創造力に富む機械技術者

を育成するための教育を行います。2年次では、機械工学の中核をなす4大力学である材料力学、熱力学、流体力学、機械力学を理解するための専門基礎科目を学びます。製図に関する複数の実習を行い、コンピュータを駆使した機械設計に関する実用的能力を伸ばします。3年次の応用系科目では、4大力学の応用科目、4大力学以外の機械工学を構成する種々の科目を受講します。講義で学んだ専門知識を、実験・実習を通じてより深く理解するために、機械工学実験を受講します。

・知能システム学コース

知能システム学に関する基礎的知識と知能システムに関連するものづくりや問題解決、コミュニケーションに必要な学問的知識・実践的スキルを修得させ、豊かな人間性と自立した想像力に富む知能システム技術者を養成するための教育を行います。機械工学の中核をなす4大力学である材料力学、熱力学、流体力学、機械力学の基礎を学び、専門的な数学、力学である応用数学、応用力学の力をつけ、設計・製作に関する授業やコンピュータを駆使した機械設計に関する実用的能力を伸ばします。3年次では知能システム学に関する専門の応用系科目として、制御基礎理論、ロボット・生体工学、情報処理と機械系をつなぐシステム理論、メカトロ・人工知能工学などの最先端の授業を受講します。また、これらの講義で学んだ知識を、実験・実習を通じて理解するための実験科目が用意されています。

・電気電子工学コース

電気エネルギーに関わる技術から、信号処理や通信システムなどの情報技術、半導体などの材料技術にいたるまで、電気電子工学について豊かな教養を持ち実践的能力を身につけた技術者を育成するための教育を行います。2年次には、電気電子工学の基盤となる電気磁気学、電気回路、電子回路などの講義科目および実験科目を履修し、電気電子工学分野の基本的な機器の取扱を含む実験技術・安全衛生・科学倫理と実践的なスキルを涵養します。また、3年次には電気系や通信系、材料系などの科目も履修し、専門性をより高めます。4年次では、知的財産や工場管理などの科目を学ぶことで、卒業後の実務に向けた知識を深めます。

・コンピュータ科学コース

知能情報社会を構築するために必要な数理科学、コンピュータ科学および人工知能を含むデータサイエンスの知識・技術を修得し、課題解決のためにデータを分析し、その解決方法をコンピュータシステムとして実現できる高度情報処理技術者を育成するための教育を行います。コンピュータ科学の技術を習得するために、ハードウェアに関する基礎理論、ミドルウェアに関する基礎理論、ソフトウェアに関する基礎理論、プログラミング言語を学びます。人工知能を含むデータサイエンスの技術を習得するために、数学、数理科学、機械学習を学びます。

・応用情報工学コース

社会に存在する課題に挑み、その解決に向かって考え、自己の成長を持続的に行える実践的能力を備えた技術者を育成するための教育を行います。情報工学・通信工学の分野学習で基盤となる論理回路、プログラミング言語、オペレーションシステムなどを学びます。さらに、マーケ

ティングやデザイン思考、サイバーセキュリティなどの講義やその他演習科目を履修することで、情報工学・通信工学に関する知識・知見をもとに、社会の直面する課題の解決に取り組む、実践的能力の涵養を図ります。

・材料デザイン工学コース

材料開発に必要な実験手法を学び、新しい材料を開発する知識・技術を習得します。材料に関して、物理学、化学、金属工学、無機材料工学、機械工学、電気・電子工学などの物質に関連する学問分野を幅広く学び、新しい機能を持った材料を開発できる人材を育成するための教育を行います。1年次のコース配属後に金属組織学・力学・熱力学などの物理科目、2年次に材料物理化学・材料強度学などの材料学の基礎科目を学びます。そして、材料工学実験科目を通じて実際の自然現象と座学の知識を有機的に関連づけていきます。また、科学技術英語の受講から英語で科学技術を表現できる能力も身に付けます。3年次では誘電体材料学、半導体材料工学、磁性材料学などの各種材料の専門的知識を学び、セラミックス材料工学や金属材料学を受講して材料学を総合的に学習します。

・化学・生命科学コース

化学や生命科学の知識を総合的に活用して、社会が抱える問題の解決策を提示できる人材を育成するための教育を行います。化学・生命科学分野における基礎から応用にわたる広い範囲の講義や実験から成る体系的なカリキュラムを用意しています。必修の応用化学実験Ⅰ～Ⅲでは、化学・生命科学コースに共通した基幹的な考え方や実験技術を身に付けます。また、選択科目として基本的専門知識を身に付けるための科目群と身に付けた基本的な知識をさらに発展させるための科目群があり、学生個々の興味や将来設計に合わせて自主的・意欲的に授業を選択することができるようになっています。3年次後学期の化学・生命科学演習では、卒業研究に直結する専門知識や実験技術を学びます。卒業研究と並行して専門性の高い学術論文を講読する科目が配されており、当該専門分野におけるものの考え方を学び知識を深めることで卒業研究の充実を図ります。

・社会基盤工学コース

土木工学に係わる専門科目の習得により社会基盤整備、持続的な環境創造を担えるエンジニアを育成するための最新のデジタル技術も組み込んだ教育を行います。2年次では、専門基礎科目として、構造力学、土質力学、水理学といった、三力と呼ばれる土木工学の根幹を成す分野の講義や、土木計画学、コンクリート材料、測量学、地球生態学といった土木工学のあるべき姿を理解する上で必須となる講義を受講します。3年次以降では、専門の応用系科目が設置され、建築分野科目も含み学修します。また、多くの実験・実習科目があり、これらの受講を通じて、講義で学んだ内容のより深い理解と定着を図ります。

・建築・社会デザインコース

建築と土木の知見を横断的に活用し、機能性と感性を両立した建築・都市空間を総合的かつ戦略的に構想し実現するアーキテクト・エンジニアを育成するための教育を行います。2年次では、

専門基礎科目として、建築設計製図に加え、建築計画、建築構造、建築材料といった建築分野の基礎的な講義と、構造力学、土質力学、水理学、土木計画学といった土木工学の根幹を成す分野の講義から選択して受講します。3年次以降では、専門の応用系科目が設置されています。県内のリアルなまちを舞台に、公民学の連携のもと、設計や防災やまちづくり・合意形成などを実践的に学びながら一級建築士の受験資格が取得できます。

・海事産業特別コース

海事産業を発展させる為に必要な船、機械工学、知能システム工学、電気工学についての知識を学び、問題解決、コミュニケーションに必要な実践的スキルを修得するための教育を行います。2年次では、船舶工学、海洋工学の入門科目と、ものづくり基礎である機械工学、電気工学、生態学、プログラミングの基礎を理解するための専門基礎科目を学びます。製図に関する複数の実習、コンピュータを駆使した設計に関する実用的能力を伸ばします。3年次の応用系科目では、ロボットやAI、パワーエレクトロニクス、海洋物理学、海に関連する経済や法規など、海事産業を発展させるために必要な幅広い分野の講義を受講します。また、自立運航船の制作、インターンシップ、実験を受講します。

・デジタル情報人材育成特別プログラム

知能情報社会を構築するために必要な数理学、コンピュータ科学、人工知能を含むデータサイエンスおよび情報工学の知識・技術を修得し、課題解決のためにデータを分析し、その解決方法をコンピュータシステムとして実現できる高度情報処理技術者を育成するための教育を行います。コンピュータ科学および情報工学の技術を習得するために、ハードウェアに関する基礎理論、ソフトウェアに関する基礎理論、プログラミング言語、論理回路などを学びます。人工知能を含むデータサイエンスや情報工学の技術を習得するために、数学、機械学習、サイバーセキュリティを学ぶとともに、チーム開発演習で課題の解決に取り組む、実践的能力の涵養を図ります。

<教育方法と成績評価>

- ・ 講義、実験・実習、体験学習、ディスカッション・グループワーク、プレゼンテーションなど、ディプロマ・ポリシーに示す教育目的と学習の到達目標に応じて最適な形式の授業を実施します。
- ・ 科目間の関係と履修の流れをカリキュラムマップとしてわかりやすく示し、専門志向・キャリアパスに応じた履修計画をサポートします。
- ・ 授業時間外学習に充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限を設けています。
- ・ すべての授業において、客観的な評価基準に基づいて、筆記試験、口頭試問、レポートなどにより厳格な成績判定を実施します。
- ・ 卒業研究を履修するには、3年次後学期終了までに修得しなければならない単位数と授業科目が定められています。

<カリキュラムの評価(教育評価)>

各学期の終了時に授業アンケートを行い、個々の授業科目の改善に役立てます。また、卒業予定学生アンケートを実施し、工学科・教育コースの教育が学生の成長にどう役立ったかを調べ、教育の改善につなげます。さらに、卒業生や卒業生が就職した企業関係者の方々の意見を聴取して、卒業認定・学位授与の方針で示された能力が確実に身につけているかを検証します。

学部のアドミッション・ポリシー(AP:入学者受入の方針)

工学部では、工学・技術の分野で技術者・研究者等として国内外で活躍できる人材の育成を目指します。そのため、工学部では次のような人物を求めます。

(知識・理解)

1. 本学科の専門分野を学ぶために必要な、高等学校卒業レベルの基礎学力を有している。

(思考・判断、技能・表現)

2. 物事を多面的に考察し、論理的にまとめ表現することができる。

3. 自分の考えを他者にわかりやすく伝えることができる。

(興味・関心・意欲、態度)

4. 工学の分野に興味を持ち、習得した知識・技術を地域社会あるいは国際社会に役立てたいと考えている。

(主体性・多様性・協働性)

5. 主体的に多様な経験を得ようとする意欲を有している。

6. 多様な他者と関わり、相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力を有している。

<選考方法の趣旨>

【一般選抜 前期日程 理型入試(理型入試A、理型入試B)】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の6教科8科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、筆記試験により数学及び理科(物理、化学、生物のうちいずれか1つ)の基礎学力を評価し、調査書又は活動調書によって、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【一般選抜 後期日程 理型入試】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の6教科8科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、筆記試験により数学の基礎学力を評価し、調査書又は活動調書によって、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【一般選抜 前期日程 文理型入試(建築・社会デザインコース)】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の6教科7科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、筆記試験により数学及び英語の基礎学力を評価し、調査書又は活動調書によって、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【一般選抜 後期日程 文理型入試(建築・社会デザインコース)】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の最大5教科6科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、面接により論理的思考能力を測り、調査書又は活動調書によって、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【一般選抜 前期日程 デジタル情報人材育成特別プログラム】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の6教科8科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、筆記試験により数学の基礎学力を評価し、調査書又は活動調書によって、コンピュータ科学・応用情報工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【一般選抜 後期日程 デジタル情報人材育成特別プログラム】

大学入学共通テストでは、高等学校卒業程度の6教科8科目の基礎学力が備わっていることを評価します。また、個別学力検査では、筆記試験により数学の基礎学力を評価し、調査書又は活動調書によって、コンピュータ科学・応用情報工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

(機械工学コース)

【総合型選抜Ⅰ】

高等学校で履修する基礎的な学力を調査書により判断します。機械の設計で特に重要となる数学と物理の基礎学力を測るために口頭試問を課しています。また、「ものづくり」の経験、興味、向上心、社会と技術の関係への関心、コミュニケーション力をみるために面接を課しています。さらに、志望理由書・調査書及び活動報告書により、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、高等学校で履修した主要教科・科目について教科書レベルの基礎的な知識を有しているかをみるために、5教科7科目を課しています。また、「ものづくり」への興味、向上心、社会と技術の関係への関心、コミュニケーション力をみるために面接を課しています。さらに、推薦書・調査書及び活動報告書により、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

(知能システム学コース)

【総合型選抜Ⅰ】

高等学校で履修する基礎的な学力を調査書により判断します。知能システムの設計で特に重要となる数学と物理の基礎学力を測るために口頭試問を課しています。また、「ものづくり」の経験、興味、向上心、社会と技術の関係への関心、コミュニケーション力をみるために面接を課しています。さらに、志望理由書・調査書及び活動報告書により、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、高等学校で履修した主要教科・科目について教科書レベルの基礎的な知識を有しているかをみるために、5教科7科目を課しています。また、「ものづくり」への興味、向上

心、社会と技術の関係への関心、コミュニケーション力をみるために面接を課しています。さらに、推薦書・調査書及び活動報告書により、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

(電気電子工学コース)

【学校推薦型選抜Ⅰ】

高等学校の推薦書・調査書及び面接・活動報告書により、高等学校卒業程度の基礎学力、電気・電子・情報通信工学に対する勉強意欲・興味・関心、主体性、協働性などをみます。電気・電子・情報通信工学の分野を学ぶためには、数学、物理、英語等の基礎学力は特に重要です。面接では、これらの基礎学力をみます。また、目標を持って勉強することや自分の考えをわかりやすく表現することも重要ですので、これらについても面接で確認します。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

高等学校の推薦書・調査書及び面接・活動報告書により、高等学校卒業程度の基礎学力、電気・電子・情報通信工学に対する勉強意欲・興味・関心、主体性、協働性などをみます。電気・電子・情報通信工学の分野を学ぶためには、数学、物理、英語等の基礎学力は特に重要です。そのため、大学入学共通テストにおいて数学、物理、情報の学力をみるとともに、面接においても、数学と英語の学力をみます。また、目標を持って勉強することや自分の考えをわかりやすく表現することも重要ですので、これらについて面接で確認します。

(コンピュータ科学コース)

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、基礎学力・教養力を評価するために、6教科8科目を課しています。目的意識、基礎的知識、自己表現力、情報工学分野への興味、学習意欲、主体性、協働性等を評価するために、推薦書、調査書、活動報告書の提出を求めるとともに、面接を課しています。

(応用情報工学コース)

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、基礎学力・教養力を評価するために、6教科8科目を課しています。目的意識、基礎的知識、自己表現力、情報工学分野への興味、学習意欲、主体性、協働性等を評価するために、推薦書、調査書、活動報告書の提出を求めるとともに、面接を課しています。

(材料デザイン工学コース)

【学校推薦型選抜Ⅰ】

面接では、材料に関する興味・関心や勉強意欲、基礎的知識及び自己表現力などについて総合的に評価します。また、口頭試問を設け、材料を学ぶ上で特に重要となる理科・数学に関する基礎学力もみます。推薦書・調査書及び活動報告書では、「知識・理解」、「思考・判断、技能・表現」、「興味・関心・意欲、態度」及び「主体性・多様性・協働性」について評価します。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、高等学校レベルの広範囲な基礎学力をみるために、6教科8科目を課しています。面接では、材料に関する興味・関心や勉学意欲、基礎的知識及び自己表現力などについて総合的に評価します。推薦書・調査書及び活動報告書では、「知識・理解」、「思考・判断、技能・表現」、「興味・関心・意欲、態度」及び「主体性・多様性・協働性」について評価します。

(化学・生命科学コース)

【総合型選抜Ⅰ】

志望理由書・調査書・活動報告書によって、高等学校等で履修する範囲の知識、論理的に考えて組み立てる能力、自身の考えを適切に表現する力を評価します。面接では、口頭試問によって化学・生命科学を学ぶ上で特に重要である化学に関する基礎学力を評価します。また、化学技術や生命科学に対する興味・学習意欲、主体性・協働性等を総合的に評価します。

【総合型選抜Ⅱ】(女子枠)

大学入学共通テストでは、高等学校レベルでの知識の広範囲な基礎学力をみるために、6教科8科目を課しています。志望理由書・調査書・活動報告書及び面接によって、化学技術や生命科学に対する興味・学習意欲、主体性・協働性等を総合的に評価します。

【学校推薦型選抜Ⅰ】

推薦書・調査書・活動報告書によって、高等学校卒業程度の英語、数学、理科、情報、国語、地理歴史、公民の基礎学力を評価します。面接では、口頭試問によって化学・生命科学を学ぶ上で特に重要である化学に関する基礎学力を評価します。また、化学技術や生命科学に対する興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【学校推薦型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、高等学校レベルの広範囲な基礎学力をみるために、6教科8科目を課しています。推薦書・調査書・活動報告書及び面接によって、化学技術や生命科学に対する興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

(社会基盤工学コース)

【学校推薦型選抜Ⅰ】

在籍校長の推薦書、調査書、活動報告書、面接(口頭試問を含む)により入学後に重点的に履修する分野・領域の修学に関する知識・理解、思考力・判断力・表現力の素地、興味・関心・意欲、態度、リーダーとしての主体性・多様性・協働性などの能力を評価します。

(建築・社会デザインコース)

【学校推薦型選抜Ⅰ】

在籍校長の推薦書、調査書、活動報告書、面接(口頭試問を含む)により入学後に重点的に履修

する分野・領域の修学に関する知識・理解、思考力・判断力・表現力の素地、興味・関心・意欲、態度、リーダーとしての主体性・多様性・協働性などの能力を評価します。

(海事産業特別コース)

【総合型選抜Ⅰ】

高等学校で履修する基礎的な学力を調査書により判断します。数学と物理の基礎学力を測るために口頭試問を課しています。また、海事産業分野への興味、向上心、社会と技術の関係への関心、コミュニケーション力をみるために面接を課しています。さらに、志望理由書・調査書及び活動報告書により、学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

【総合型選抜Ⅱ】

大学入学共通テストでは、高等学校で履修した主要教科・科目について教科書レベルの基礎的な知識を有しているかをみるために、5教科7科目を課しています。また、海事産業分野への興味、向上心、社会と技術の関係への関心、コミュニケーション力をみるために面接を課しています。さらに、志望理由書・調査書及び活動報告書により、工学分野への興味・学習意欲、主体性・協働性等を評価します。

(デジタル情報人材育成特別プログラム)

【総合型選抜Ⅱ】(女子枠)

大学入学共通テスト、志望理由書、調査書、活動報告書、面接により入学後の修学全般に必須な基礎学力、入学後に重点的に履修する領域の修学に関する知識・理解、思考力・判断力・表現力の素地、興味・関心・意欲、態度、リーダーとしての主体性・多様性・協働性などの能力を評価します。

【学校推薦型選抜Ⅰ】

目的意識、基礎的知識、自己表現力、情報工学分野への興味・学習意欲、主体性、協働性等を評価するために、推薦書、調査書、活動報告書の提出を求めるとともに、面接を課しています。基礎学力、論理的思考能力、コミュニケーション能力を評価するために、口頭試問を課しています。